

召渡少納言、少納言取之置内辨前、内記又奉木契、内辨取木契左片裏紙、書封入管、召少納言給之、令入印辛櫛、少納言取出鈴三具、立日華門外、内記等退出、掃部參入、撤案并疊等、内辨召内豎、内豎參内、辨宣、左右馬寮召セ、内辨宣、固關使爾御馬給ヘ、馬允等各退出、又令喚使等、各給勅符木契等、少納言於日華門外持官符鈴等、召内舍人等給之、内辨召内記返給勅符管并管硯等、次内辨召左右馬兵庫寮使等、仰可警固之由、又召諸衛仰可警固之由、次内辨召内記令進宣命草、次清書奏挿杖諸卿着外辨座、内辨着鞆、近衛陣闌司分居、内記把宣命於杖參入宣仁門内辨召取宣命、内記把空杖退、内侍臨檻、内辨謝座、昇開門、内辨喚舍人、少納言稱唯、刀禱召セ、少納言出、外辨參北面大臣召宣命使、中納言作法如例、次内侍給御劔璽、出夜大殿授近衛司等大臣諸卿參新帝、一如行幸儀。

〔代始和抄〕御讓位事

御國のづりは、天下の重事、世の替りめたるによりて、非常をいましめんために、警固固關といふ事をまづ最前行はるゝ也、警固といふは、或は兼日、或は當日に、上卿陣に着て、六府の將佐をめして、司々かためまもりまつれと仰すれば、將佐稱唯して在りぞく、是を警固となづくる也、警固は讓位にかぎらず、毎年の賀茂祭以下ことある時行はるゝ事也、固關といふは、關々をかたむる事なり、むかしは奥州の蝦夷や、もすれば都に亂入せんとせし事のありしによりて、その用心のため、東山東海の關をかため在むるなり、今は伊勢の鈴鹿の關、近江の逢坂の關、美濃の不破の關を専らまもらしむるなり、其儀は、大臣陣につき、内記を召て勅符つくるべきよし仰す、又辨をめして官符つくるべきよしをおほす、勅符といふは、三ヶ國の國司のかたへ、關々をかたむべきよし仰下さるゝ文なり、御畫ある例もあり、又なき例も有なり、御畫とは、内記が月日の間に關字をしたる所に、宸筆にて日づけをあそばし入らるゝ事なり、官符といふは、是も三ヶ國の國司のかたへつかはざるゝそへ文なり、勅符にも官符にもおの／＼請印の事あり、これに又木契とて、